

短 報

学生にとって学びやすい実習室を目指した取り組み
—学生実習室委員会との連携および実習室助手の役割に焦点をあてて—

佐居 由美¹⁾ 中溝 倫子¹⁾ 宇都宮明美¹⁾ 森島久美子¹⁾ 蛭田 明子¹⁾
沢口 恵¹⁾ 桑原 良子¹⁾ 大原まどか¹⁾ 藤田 俊介¹⁾

Improving the Nursing Learning Lab to Facilitate Nursing Students' Self-study
—A Collaboration with the Nursing Learning Lab Student
Committee and the Nursing Skills Lab Instructor Evaluation—

Yumi SAKYO, PhD, RN¹⁾ Rinko NAKAMIZO, BSN, RN¹⁾
Akemi UTSUNOMIYA, MSN, CCNS, RN¹⁾ Kumiko MORISHIMA, BA¹⁾
Akiko HIRUTA, RN, CMN, PhD¹⁾ Megumi SAWAGUCHI, PhD, RN¹⁾
Yoshiko KUWABARA, MSN, GCNS, RN¹⁾ Madoka OHARA¹⁾ Syunsuke FUJITA¹⁾

[Abstract]

The teacher and student body of the Nursing Learning Lab (NLL) at St. Luke's International University, College of Nursing have attempted to improve the lab's learning environment to facilitate undergraduate students' self-study. In 2015, the NLL student committee members were selected from among the students. Students' opinions were obtained to identify lab needs, and the support of a full-time nursing skills lab instructor was sought.

The student committee, comprising 16 undergraduate students, met with the NLL teacher committee once a month.

We discussed the issues faced in the first half of the year, particularly, the lab's management as a learning environment, cooperation with the investigation of the NLL's environment, etc. The nursing skills lab instructor facilitated students' self-study, supported nursing skills development, and ensured efficient management of the NLL.

The students expressed high levels of satisfaction with the instructor's contributions and provided feedback regarding the need for technical guidance, longer interactions with the instructor, maintenance of equipment, etc. General issues included insufficient study space, inadequate nursing material, and lack of student discipline.

By collaborating with the student committee, we shall address these issues to provide the best possible learning environment for students.

[Key words] nursing student, nursing skills lab, nursing skills lab instructor, collaboration

[要 旨]

聖路加国際大学看護学部では、教員と学生が連携し、学部生にとって学びやすい環境となるよう実習室を整備する取り組みを行っている。2015年度は学生実習室委員会を発足させ、学生の意見を実習室環境の

1) 聖路加国際大学看護学部 実習室委員会 St. Luke's International University, College of Nursing, Committee of Nursing Learning Lab

整備に反映させるとともに、常勤実習室助手の自己学習支援により、学生が学びやすい環境となるよう整備した。学生実習室委員会は学部生16名で構成され、月に1回、教員実習室委員とともに学生実習室委員会を開催している。2015年度前期の主な検討内容は、実習室環境整備やアンケート調査への協力などであった。

実習室助手は学生の自己学習支援および実習室環境整備を調整する役割を果たし、その活動は、学生から「支援が行き届いている」という評価を得ている。学生から実習室助手への要望としては、技術指導内容の充実、対応時間の拡大、物品整備などがあつた。実習室全体では、自己学習スペースや物品数の不足、使用上のマナーなどの課題があつた。今後も学生との連携のもと、学生にとって学びやすい実習室を目指した取り組みを継続していきたい。

〔キーワード〕 看護学生、看護実習室、実習室助手、連携

I. はじめに

本学には、学生の実習室環境を整備するため、教員で組織された実習室委員会が存在する。実習室委員会は、学長より任命された教職員9名（看護系教員6名、財務経理課職員1名、物品管理課1名、学生支援センター1名）によって構成され、学生が実習室において看護に必要な看護技術を修得することを支援するため¹⁾実習室環境や支援体制を整備することを目的として活動し、月1回定例委員会を開催している。本委員会では、学生支援センター長の助言のもと2015年度より学生実習室委員会を立ち上げた。

本稿では、実習室委員会（以下、教員実習室委員会）と学生実習室委員会の連携と学生の自己学習を支援する実習室助手の役割、および学生にとって学びやすい実習室を目指した本学の取り組みについて報告する。

II. 学生実習室委員会との連携のプロセス

学生実習室委員会と教員実習室委員会は、主に、月に1回開催される学生実習室委員会での検討を通して連携している。

1. 学生実習室委員会の役割

学生実習委員は実習室助手と協力し、主体となって実習室の学習環境整備を推進する役割を担うことを目的に、2015年度に新設された学生委員である。以下の活動を他の学部生と協力し推進する役割を担う²⁾。

- 学部生全員が実習室環境整備に定期的に取り組める環境をつくる。
- 実習室環境改善についての提案および検討を行う。
- 実習室に関しての学部生への伝達事項や学部生からの要望などについて、学生実習室委員会にて意見交換を行う。

2. 活動概要

学生実習室委員会では、前述の役割のもと、学生自身が自己学習に関する要望や改善案などを話し合い、学生にとって利用しやすい実習室自己学習環境をつくるために活動した。また、教職員から発信する実習室に関する情報を学生間で共有できるような働きも行った。

1) 学生実習室委員の構成

学生実習室委員会を発足にするにあたり、2015年度4月に、学部と学士から共に各学年2名以上の委員を選出するように、学生部に依頼した。人数の関係上、学士の確保が学部と比べて困難なため、学部と学士を合わせて各学年4名以上と募集人数を変更して調整した。現在の委員数は、途中参加を含めて学部1年生が5名、学部2年生が3名、学部3年生が3名、学部4年生が3名、学士17回生が1名、学士18回生が1名、学士19回生が2名の計18名で構成されている。

2) 活動日程

全学年が参加できるように必修授業のある曜日を学生実習委員会開催日と決定した。前期は第2月曜日の昼休み、後期は第2金曜日の昼休みにそれぞれ30分間、月1回を定例とし、前期は、計5回開催した。

3) 委員会での学生の役割分担

司会進行は、委員長を含む4年生が担当した。2回目以降の書記は、4年生から順番に各学年持ち回り制とした。各委員は、各学年の学生代表として議案に沿った意見を出し合った。

4) 学生実習委員会に出席した教員構成と役割

学生実習委員会には、実習室助手の他に1～2名の教員実習室委員が出席した。議案の提案を行い、学生からの意見や要望は、必要時、教職員実習室委員会で報告検討した。

5) 学生実習室委員会の活動

2015年4月から2015年9月の期間における学生実習室委員会の活動は、主に「実習室環境改善に関する取り組

み」と「学生実習室委員会活動の発信」であった。

(1) 実習室環境改善に関する取り組み

①物品について

学年毎に、学生が不足していると感じる物品（DVD、パーティーション、モデル類等）についての意見をまとめた。学生委員の教員と共に学生からの不足物品についての意見を検討し対策を考えた。実施したい学習項目や必要物品について意見を出し合った（薬剤調剤の練習等）。

②環境面について

地下実習室改修工事において改善してほしい設備について学生が意見を出し合った（視聴覚機器の導入、ベッド数や配置等）。

③自己学習支援体制について

学年毎に、実習室助手による学習支援対応を希望する日程について意見をまとめて要望した。

④実習室環境改善のためのアンケート調査への協力

教職員による実習室委員会実施の学生アンケート調査において、学年毎にアンケート用紙の配布と回収を行った。

(2) 委員会活動内容についての配信

2015年度前期の委員会活動についての紹介や報告を目的としたレターを作成し、2015年9月に学生および教職員に配信した。レターの配信は学生実習室委員会の活動を配信することで、実習室環境整備についての全学生への啓発も意図したものである。

Ⅲ. 実習室助手の役割

本学では、かねてより学部生の自己学習支援および実習室環境整備のために、実習室支援員（看護師免許保持者）をアルバイトで週2回雇用していた。支援員アルバイトは、本学の大学院生や卒業生など大学のカリキュラムおよび実習病棟に詳しい人物に依頼していた。2014年6月からは、学部生の自己学習支援を強化するため、実習室専任の助手（以下、実習室助手）が配置された。

1. 実習室助手の役割

実習室助手は、学部生の自己学習支援および実習室環境整備を主な役割としている。

1) 学生の自己学習支援の実際

実習室助手の実習室在室時間は学生実習室委員会と検討のもとに決定している。学生が計画性をもって自己学習ができるように、数カ月ごとのまとまった期間の在室日を決定し（図1）、在室日の告知は、遅くとも1カ月前には行っている。告知方法はWEB学内支援システムmanabaへの掲載、使用頻度の高い学年（1～3年生）および教員へのメール配信、教務課掲示板および実習室への掲示の3通りの方法で行っている。

実習室自己学習支援 対応時間 10

Sun	Mon	The	Wed	Thu	Fri	Sat
				1 8:30～ 16:00	2 10:30～ 18:00	3
4	5 11:30～ 19:00	6 9:30～ 17:00	7 11:30～ 19:00	8 8:30～ 16:00	9 10:30～ 18:00	10 授業実務日 9:30～17:00
11	12	13 9:30～ 17:00	14 11:30～ 19:00	15 8:30～ 16:00	16 10:30～ 12:00	17
18	19 11:30～ 19:00	20 9:30～ 17:00	21 11:30～ 19:00	22 8:30～ 16:00	23 10:30～ 12:00	24 9:00～ 17:00
25	26 代休	27 9:30～ 17:00	28 11:30～ 19:00	29 11:30～ 16:30	30 10:30～ 18:00	31

11

Mon	The	Wed	Thu	Fri
1 11:30～ 19:00	2 3	4 11:30～ 19:00	5 8:30～ 16:00	6 10:30～ 12:00
7 9:00～ 17:00	8 9:30～ 17:00	9 11:30～ 19:00	10 11:30～ 19:00	11 12 8:30～ 16:00
12 13 PM白転染甲類 10:30～ 18:00	14 白転染 (本衣)	15 16 17 9:30～ 17:00	18 19 8:30～ 16:00	20 21 授業実務日 9:30～17:00
22 23 24 9:30～ 17:00	25 26 11:30～ 19:00	27 28 8:30～ 16:00	29 30 11:30～ 19:00	31

毎週水曜日のチャペルアワー時間帯は、対応時間外です。
場合によって、行事や会議出席のため不在となる時間帯があります。
Manabaや準備室ドア掲示を確認し、利用してください。

図1 実習室助手在室日カレンダー

2014年10月～2015年9月の期間において、実習室助手の在室時間に自己学習を行った学生は、延べ13,556名で、2年生、1年生、3年生、4年生、の順で多かった。具体的な支援内容としては、看護技術の直接的指導の他に、自己学習方法や使用物品管理方法について領域の教員との検討、学生利用時の定期的な見回りや声掛け、看護技術についての質問対応等がある。

2) 実習室環境の整備

常に学生にとって学びやすい実習室とするために、実習室環境の整備にも取り組んでいる。2015年前期は学生実習室委員会との検討結果および学生の自己学習支援状況に合わせて、自己学習物品やモデル使用方法の掲示、自己学習物品やモデル類の準備や故障品への対応、日々のモデル類のメンテナンス、利用マナーについての注意、掲示物の作成などを行った。

3) 実習室助手の役割についての学生の評価

学部生を対象に行った実習室環境改善についての調査では、実習室助手について下記の結果を得た。調査は2015年6月11日から8月10日に実施し、学部生373名を対象とした。紙媒体およびWEB上にて調査を行い、回収率は53.9%であった。倫理的配慮としては、アンケート調査依頼文に、回答内容は自由意思によること、個人が特定されずに集計して公表することを明記した。また、紙媒体の配布は学生実習室委員が行い、教員から学生への依頼による強制力を排除した。

表1 実習室助手の支援：行き届いている点

<p>I 疑問・質問：142件 (68%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疑問・質問に対する適切な指導 (81件) <ul style="list-style-type: none"> ・わからないことや上手くできないことについて教えてくれた (31件) ・優しく、親身に分かり易く教えてくれた (21件) ・求めている答えが得られた (15件) ・どんな質問でも答えてくれた (7件) 他 (5件) 2. 指導時の丁寧な姿勢 (28件) <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に教えてくれた 3. 学生への迅速な対応 (23件) <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに質問でき、答えてくれた (16件) ・自己学習対応時間は、いつでも対応してもらえた (7件) 4. 質問しやすい環境づくり (6件) <ul style="list-style-type: none"> ・練習していると見まわってくれて、質問しやすかった 5. 臨床経験に基づいた指導 (4件) <ul style="list-style-type: none"> ・病棟で実際に実施している方法など具体的に聞けた
<p>II 物品管理 (準備・補充・修理・片付け等)：23件 (11%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要物品の適切な準備・補充 (17件) <ul style="list-style-type: none"> ・必要な物品の準備や補充をしてくれていた (12件) ・足りないものはないか、常に気にしてくれた (5件) 2. 使用物品や実習室環境の定期的な整理整頓 (7件) <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備をしてくれている様子を見た (6件) ・以前より綺麗に片付いて使い易くなった (1件) 3. 故障物品への迅速な修理対応 (3件) <ul style="list-style-type: none"> ・物品故障時、すぐに交換や修理対応してくれた 4. 物品使用方法についての説明実施 (2件) <ul style="list-style-type: none"> ・物品使用時の注意点等こまめにアナウンスしてくれた
<p>III 見まわりや声掛け：19件 (9%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 状況に合わせた声掛け (13件) <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンド時に声をかけて質問しやすくしてくれた (7件) ・不安を和らげようと、実習・演習前後に声掛けてくれた (3件) ・声掛けで安心できた (3件) 2. 自己学習中の頻回な見回り (6件) <ul style="list-style-type: none"> ・頻回にラウンドし、学生の様子を見てくれた
<p>IV 自己学習支援対応時間：13件 (6%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業務内での確実な在室時間の確保 (8件) <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された時間はほとんど在室している (5件) ・助手が常時いるので、質問しやすい (3件) 2. 在室状況の分かり易い告知方法 (5件) <ul style="list-style-type: none"> ・対応時間のスケジュールが見やすく、在室時間がわかりやすかった (2件) ・どこにいるか、何時に戻るかをドア掲示で知らせている (2件) ・対応カレンダーを manaba でお知らせしている (1件)
<p>V 困った状況：3件 (1%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題発生時の迅速な対応 (2件) <ul style="list-style-type: none"> ・困った事が起きた時、すぐに助けてくれた 2. 実技以外の学生からの相談対応 (1件) <ul style="list-style-type: none"> ・心配事など相談できた
<p>その他：8件 (4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすい存在でした。 ・2年生の展開論実習の時は、メッセージが書いてあるホワイトボードがあってとても嬉しかった。 ・予習をしっかりとせずに使っていた人に注意していた。

(1) 実習室助手の支援について

「実習室助手の支援が行き届いていたか」については、「そう思う：95人 (51%)」「ややそう思う：71人 (38%)」「あまり思わない：18人 (10%)」「思わない：2人 (1%)」であった。約9割の学生が「行き届いていた」と回答し、昨年度の結果³⁾とほぼ同様であった。

(2) 実習室助手の支援について

実習室助手の支援について、行き届いている点および行き届いていない点について自由記載を求めた。その結果、行き届いている点として208件の回答があり (表1),

表2 実習室助手の支援：行き届いていない点

<p>I 時間・タイミングについて：13件 (57%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対応時間と利用した時間が合わない (10件) <ul style="list-style-type: none"> ・利用した時間が在室時間ではなかった (6件) ・会えなかった (2件) ・曜日によって在室時間が異なる (1件) ・対応時間が短い (1件) 2. 利用者が多いと質問できない (3件) <ul style="list-style-type: none"> ・自己学習をする人が多い時間帯は質問をしなくても実習室助手さんの手がなかなか空かなくてつかまえずらかったです。
<p>II 支援について：8件 (35%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 支援を受けたことがなく不明 (7件) <ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けたことがないので分かりません。 2. 支援員の人数が足りない (1件) <ul style="list-style-type: none"> ・1人しかいない
<p>III 物品について：1件 (4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物品の準備が不十分だった。
<p>IV 連携について：1件 (4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員との連携 (が行き届いていない)

表3 実習室助手に求める支援

<p>I 今のままでよい：25件 (39%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今のままで十分 (16件) 2. 必要時、質問に答えたりアドバイスをする (4件) 3. 見まわりや声掛け等の質問しやすい環境づくり (2件) 4. 温かい、丁寧な指導 (3件)
<p>II 技術指導について：16件 (25%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の指導をしてほしい (10件) 2. 質問へ対応してほしい (4件) 3. 自己学習中、手技をみてほしい (1件) 4. 実際の病棟での様子について教えてほしい (1件)
<p>III 対応時間について：7件 (11%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. もっと長時間いてほしい (4件) 2. 授業の空き時間の対応をふやしてほしい (1件) 3. 授業の質疑応答後にまとめて質問できる時間をとってほしい (1件) 4. 人数を増やしてほしい (1件)
<p>IV 物品について：5件 (8%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不足物品への対応 (3件) <ul style="list-style-type: none"> ・DVD 数を増やしてほしい (2件) ・リネン類 (特に防水シーツ) を増やしてほしい (1件) ・不足物品の補充 (1件) 2. 適宜、自己学習ができる場所への物品の移動 (1件)
<p>V 実習室予約について：3件 (5%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が優先的に自己学習できる場所の確保
<p>VI 時間について：3件 (5%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習室の利用時間の延長
<p>VII 学生への対応の仕方について：1件 (2%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. もっと密接に
<p>VIII 特になし：4件 (6%)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特にないです。いつもありがとうございます。

疑問や質問についての対応、準備・補充・修理・片付け等の物品管理、見まわりや声掛け、困った状況への対応などについてであった。一方で、行き届いていない点としては、対応時間と利用した時間が合わない、利用者が多いと質問できない、支援を受けたことがない等、23件の自由記載があった (表2)。

(3) 実習室助手に求める支援

実習室助手に求める支援として65件の記載があった (表3)。うち25件は今のままでよいと現状の支援を希望しており、他に、技術指導、対応時間、物品、学生が優

先的に自己学習できる場所の確保について要望があった。

IV. 今後に向けて

本学では、学生実習室委員会と教員実習室委員会が連携し、学生の視点を取り入れた看護実習室の運営管理を行っている。常勤の実習室助手によって、学生は看護実習室にて自己学習する多くの時間帯で支援を受けることができ、その活動は学生から高い評価を得ている。学生からは自己学習スペースや物品数、使用上のマナーなどについての要望があり、実習室助手の在室時間と共に継続課題である。

2016年には、臨床学術センター内に学生も使用可能なシミュレーションセンターが開設される予定である。今後は、シミュレーションセンターとも協力しながら、学生実習室委員会との有機的な連携および、実習室助手の役割の発展も視野にいれ、本学における学びやすい実習

室を目指した取り組みを継続していきたいと考えている。

謝 辞

学生実習室委員会設立をご助言くださった学生支援センター長の及川郁子先生に御礼申し上げます。いつも学生の立場に立ってご示唆いただきましたこと、心より感謝いたします。

引用文献

- 1) 聖路加国際大学実習室委員会規程, 第2編第5章10項.
- 2) 聖路加国際大学看護学部. (2015). 2015年度学生便覧. 29.
- 3) 佐居由美, 植田尚子, 眞鍋裕紀子, 森島久美子, 大原まどか, 蛭田明子. (2015). 聖路加国際大学看護学部実習室の現状と課題. 聖路加国際大学紀要. 1, 114.